

続

歴史探訪



第26回

観世音堂の裁縫絵馬 (窪田町矢野目)

裁縫の様子を描いた絵馬

今回は窪田町矢野目にある観世音堂の裁縫絵馬を紹介します。裁縫の上達を祈願し、師匠(先生)に感謝するため、針子(生徒)が奉納した絵馬です。

以前は、衣服は女性が手作りするもので、裁縫(針仕事)は嫁入り前の女性が習得すべき大事な技能でした。母が娘に教えるほか、江戸時代は寺子屋で習い、明治以降は裁縫塾や女学校で学びました。

▲絵馬には師匠の「小関わき」、生徒の「さた・りゑ・きり・まさ・しう・こん・とく・みん・いし・はや・みつゑ」の名が記されています。現在は、上矢野目公民館に保管されています。
※見学を希望する場合は、秘書広報課までお問い合わせください。



この絵馬は明治24年に奉納されたもので、着飾って裁縫をする女性12人が描かれています。裁縫塾で針稽古を習った生徒が、上達の祈願と師匠小関わきへの感謝のため納めたものと思われまます。なお、生徒は針子あるいはお把針子と呼ばれ、山形県では裁縫絵馬を針子絵馬とも呼んでいます。

絵馬を描いたのは精長という画家で、窪田地区や塩井地区の神社や堂宮には精長筆の絵馬が多く見られます。また、こうした裁縫絵馬は、窪田地区では東江股の春日神社(明治7年奉納)と窪田の保呂羽堂(明治30年奉納)に掲げてあります。

小関わきと 沖縄料理研究家翁長君代氏

数十年前、裁縫絵馬に描かれているのは、自分の曾祖母だという女性が現れました。沖縄県で料理研究家として著名な翁長君代(旧姓・小関キミヨ)氏です。

君代は明治37年に窪田村矢野目に生まれました。曾祖母の小関わきに育てられ、米沢高等女学校(現・米沢東高等学校)を卒業し、奈良高等師範学校(現・奈良女子大学)家事科に入学。卒業後は朝鮮の高等女学校に奉職し、その地で沖縄出身の翁長俊郎と結婚、終戦まで家事・裁縫・修身を教えました。

終戦後は夫の故郷沖縄に移り、夫婦で琉球大学の先生となります。君代は大学で教える一方、テレビの料理番組や、ラジオ番組「お料理一口メモ」に出演します。また、沖縄料理を研究し、『琉球料理と沖縄の食生活』を著しました。その他、国際ソロプチミスト沖縄の初代会長としても活躍しました。

なお、絵馬は今でも地区の宝として大切に保管されています。

紙説 表解

8月の半ば、西條天満公園で、アクセルリンク、アットストリート、まなびすに所属する学生の皆さんに集まってもらい、撮影しました。撮影翌日の公園では、学生が考案した「水鉄砲バトル」も初開催。会場は子どもたちの歓声で賑わいました。学生たちの新たな企画が続々と生まれています。(8月18日(金)撮影)



編集後記

学生インタビューのため山大工学部のキャンパスへ。「最近の若い人はどこでご飯を食べるの?」という質問が何気なく出てきた時、自分が大人になったことを実感しました。(高橋)

本県で45年ぶりの開催となったインターハイ。本市でもホッケー競技で熱戦が繰り広げられました。激しい攻防に観客も一喜一憂。「がんばれ!」カメラを握りしめ、応援しました。(米野)